

# 令和6年度 学校評価のための教職員による自己評価

令和7年1月29日  
青森県立青森南高等学校

4：十分行われている 3：ほぼ行われている 2：あまり行われていない 1：行われていない 0：回答不能

・4から0の列の「%」は、各項目の評価の割合を示しています。なお、第1学年～第3学年は、所属する教職員のみで評価となります。  
・評価平均は、4～1を選択した教職員の平均となっています。

## 1 学校全体の状況・教育活動

少数第2位を四捨五入

項目	内容	4	3	2	1	0	評価平均
グローバル教育	1 グローバル教育活動を通して、他者と関わる力及び協働する力を育成する。	46.7%	44.4%	2.2%	0%	6.7%	3.5
学習指導	2 確かな学力の養成をめざし、新たな指導方法の研究と授業改善に努める。	42.2%	48.9%	2.2%	0%	6.7%	3.4
危機管理体制	3 災害や事故防止のための管理体制が整っており、組織的に機能している。	28.9%	60%	8.9%	0%	2.2%	3.2
家庭・地域との連携	4 家庭や地域の意見が、教育活動に反映されている。	24.4%	62.2%	6.7%	0%	6.7%	3.2
	5 家庭との連絡は適切に行われている。	44.4%	48.9%	2.2%	0%	4.4%	3.4
教職員のサービスに対する意欲・姿勢	6 教職員として自信と誇りを持ち、職務に取り組んでいる。	48.9%	48.9%	0%	0%	2.2%	3.5
	7 教職員相互の連携と協力のもとに教育活動に取り組んでいる。	51.1%	46.7%	0%	0%	2.2%	3.5

## 2 教務部

教育課程	8 魅力ある教育課程の編成に向けて、教育課程委員会、教科主任会議等を通じ、全職員が教育課程に取り組む環境を整備する。	40%	44.4%	2.2%	0%	13.3%	3.4
	9 学校改革のための情報提供を行うとともに、関連する調査や統計などについて支援を行う。	40%	35.6%	8.9%	0%	15.6%	3.4
授業	10 互見授業を積極的に推進するとともに、授業方法・評価方法の改善のための支援と情報共有を行う。	42.2%	40%	4.4%	0%	13.3%	3.4
校務処理・運用	11 業務を計画的に行うとともに、諸規程の整備と諸表簿の正確な作成と管理を徹底する。	40%	46.7%	2.2%	0%	11.1%	3.4
ICT活用推進と環境整備	12 ICT活用についての教員の情報共有を推進し、授業や校務におけるICT活用のための環境を整備する。	26.7%	48.9%	11.1%	0%	13.3%	3.2

## 3 生徒指導・保健部

生活指導	13 心の通った挨拶の励行、容儀指導を行う。	15.6%	66.7%	8.9%	0%	8.9%	3.1
安全指導	14 事故・非行の未然防止に努めるために、安全指導・安全教室等を開催する。また、日常生活においては、交通事故や自然災害及び感染症対策を重点にした指導を適切に実施する。	40%	51.1%	0%	0%	8.9%	3.4
特別活動	15 ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、更にはボランティア活動、地域活動を通して、社会性やコミュニケーション能力の育成、また、郷土への誇り、グローバル社会に貢献する態度を育てる。	28.9%	57.8%	4.4%	0%	8.9%	3.3
教育相談	16 教職員間や保健室との連携を図り、生徒の多様な特性等を早期に把握し、生徒理解に努める。また、生徒支援委員会の機能を生かし、特別な配慮を必要とする生徒の対応に努める。	44.4%	46.7%	0%	0%	8.9%	3.5
環境美化	17 施設安全点検や清掃点検等を通して、安全で清潔な学習環境を整えるとともに、物を大切にすることを育成する。	20%	55.6%	11.1%	2.2%	11.1%	3.1
いじめ防止	18 いじめをしない生徒の育成を行うため、生徒主体のいじめ防止活動を推進する。また、いじめ防止対策委員会と連携し、いじめの早期発見・早期対応に努める。	40%	51.1%	0%	0%	8.9%	3.4

## 4 進路指導部

学力把握と学力向上対策	19 生徒一人一人の学力の把握と、学力及び主体性を身につけるための取組を行う。	37.8%	44.4%	2.2%	0%	15.6%	3.4
情報提供と進路意識の向上	20 進路情報の提供、進路決定の支援、進路意識の高揚に向けた取組を行う。	35.6%	48.9%	0%	0%	15.6%	3.4
個別の進路への対応・支援	21 校内における進路指導体制の構築と情報共有の取組を行う。	35.6%	42.2%	6.7%	0%	15.6%	3.3

## 5 渉外部

50周年事業	22 創立50周年記念事業を関係各位、各分掌と連携して取り組んだ。	57.8%	31.1%	0%	0%	11.1%	3.7
父母教師会	23 父母教師会における諸活動が適切に行われるよう支援した。	48.9%	37.8%	2.2%	0%	11.1%	3.5
(一財)後援会	24 奨学金制度の円滑な運営を図る。	42.2%	33.3%	0%	0%	24.4%	3.6
	25 後援会バスの適切な運営と生徒会館の適切な利用を図る。	42.2%	31.1%	2.2%	0%	24.4%	3.5
同窓会	26 同窓会理事会及び総会・懇親会を円滑に実施することができた。	46.5%	32.6%	0%	0%	20.9%	3.6

6 外国語科

項目	内容
専門学科としての目標	27 外国語科が有する資源を有効活用し、普通科と連携を図りながら、国際理解教育に取り組んだ。
	28 国際交流事業（オンライン交流等）を通じて、生徒が外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図る姿勢を育んだ。
	29 校外外で、英語、ロシア語を活用した実践的な活動を実施し、異文化理解や語学力の向上を図った。

4	3	2	1	0	評価平均
53.3%	31.1%	0%	0%	15.6%	3.6
57.8%	24.4%	0%	0%	17.8%	3.7
51.1%	31.1%	0%	0%	17.8%	3.6

7 グローバル探究部

図書館利用	30 生徒の読書推進に努め、「読書・学習センター」としての機能の充実を図った。
	31 書籍（図書資料）の収集・整理に努め、教職員のサポート機能の充実を図った。
	32 PEN活動で思考力・判断力・表現力の育成を図った。
図書委員会活動	33 図書委員会活動の活性化に努めた。
芸術鑑賞	34 芸術鑑賞教室の入念な計画と円滑な運営に努めた。
総合的な探究の時間	35 「総合的な探究の時間」の計画及び運営を通じて、探究活動に必要なスキルや思考力の育成に取り組んだ。
グローバル探究科	36 地域資源の活用や高等教育機関や企業、外部人材との連携を通じて、特色ある探究活動を行った。
IBDP	37 IBDPの認定に向けて、認定申請提出のための準備や、IBへの理解を深め、校内一丸となってIB教育を推進する体制の構築に取り組んだ。

30.2%	41.9%	4.7%	0%	23.3%	3.3
44.4%	37.8%	0%	0%	17.8%	3.5
40%	42.2%	0%	0%	17.8%	3.5
40%	35.6%	2.2%	0%	22.2%	3.5
62.8%	18.6%	0%	0%	18.6%	3.8
48.9%	33.3%	2.2%	0%	15.6%	3.6
53.3%	31.1%	0%	0%	15.6%	3.6
40%	42.2%	0%	0%	17.8%	3.5

8 事務部

重点目標	38 学校経費（県費・諸会費）の効率的な執行。
	39 施設・設備の安全・維持管理。
	40 地球に優しい青森県行動プランの推進継続。

40%	28.9%	4.4%	0%	26.7%	3.5
46.7%	33.3%	2.2%	0%	17.8%	3.5
37.8%	35.6%	0%	0%	26.7%	3.5

9 第1学年（該当する教員のみ）

生活指導	41 基本的な生活習慣の確率と心身共に健康な生徒の育成を、全ての学校生活を通して計画的に行った。
学習指導	42 自主的に学習に取り組む、進路達成のために必要な知識を身につけた生徒を育成するために、授業や講習などの学習指導を計画的に行った。
生徒指導	43 グローバルな視点に立ち、他者を認め誰とでもより良い関係を気付くことができる生徒を育成するため、授業等の学校生活全体や学校行事を通して計画的に行った。
進路指導	44 総合的な探究の時間（SDGs、職業研究、地域課題研究）および外部団体の体験行事などを通して、自らの進路を主体的に考える生徒を育成するための指導を行った。

55%	45%	0%	0%		3.6
57.1%	42.9%	0%	0%		3.6
50%	50%	0%	0%		3.5
60%	40%	0%	0%		3.6

10 第2学年（該当する教員のみ）

生活指導	45 爽やかな挨拶、時間厳守など集団生活を快適に過ごすためのルールを遵守する態度を育み、穏やかな学校生活を通して心身ともに健康な生徒かつ何事にも挑戦することのできる生徒の育成ができた。
学習指導	46 基本となる毎時間の授業を大切にすることで基礎知識の定着を図るとともに、進路達成に向けた各種講習や模擬試験を通して学力の向上を図ることができた。
生徒指導	47 個人面談の充実、全教員との情報交換を密にし生徒理解に努めることで問題行動やいじめの早期発見、トラブルの回避に繋げることができた。また、学校行事に積極的に参加することで、仲間と協働し他者を思いやる態度を育むことができた。
進路指導	48 総合的な探究の時間等を通じて、自分の将来について主体的に探究することができた。また、地域活動や国際交流行事等への積極的に参加することができた。

31.3%	62.5%	6.3%	0%		3.3
37.5%	62.5%	0%	0%		3.4
31.3%	68.8%	0%	0%		3.3
37.5%	62.5%	0%	0%		3.4

11 第3学年（該当する教員のみ）

生活指導	49 生徒が己の所属集団を「広い視野で俯瞰」し「思いやり」を示せるよう、ホームルーム活動や学校行事の場面を捉え指導することができた。
生徒指導	50 生徒個々の発達段階に応じて適切な「判断材料」や「アドバイス」を与え、本人の「信念」に基づいた選択を「自己決定」できよう指導することができた。
学習指導	51 日々の学習活動の中で「成功体験→自信・自己肯定感up」のサイクルを回し、一段高い学習課題や苦手科目克服へ「挑戦」させることができた。
進路指導	52 面談等を通し、己の資質・能力・信念にマッチした志望先を生徒自身が「自己決定」できよう誘い、その目標達成に向けた「挑戦」が持続するよう日常的な働き掛け（言葉掛け・資料や講習や相談機会の提供）を行うことができた。

52.9%	41.2%	5.9%	0%		3.5
41.2%	58.8%	0%	0%		3.4
33.3%	66.7%	0%	0%		3.3
56.3%	43.8%	0%	0%		3.6